

岡山県の災害リスクといざという時の行動

3 テロ・武力攻撃など

テロ・武力攻撃から身を守る行動

正しい情報を把握し、冷静な行動を

武力攻撃やテロなどが迫り又は発生した地域には、市町村の防災行政無線や緊急速報メール等により注意を呼びかけます。こうした事態に遭遇した場合には、正しい情報を把握し、冷静に行動することが大切です。いざという時のために、日頃からどのように対応したらよいか心得ておきましょう。



爆発が起こったら

- とっさに姿勢を低くし、身の安全を守りましょう。
- 周囲で物が落下している場合には、落下が止まるまで、頑丈なテーブルなどの下に身を隠しましょう。
- その後、爆発が起こった建物などからできる限り速やかに離れましょう。
- 警察や消防の指示に従って、落ち着いて行動しましょう。
- ラジオやテレビなどを通じて、行政機関からの情報収集に努めましょう。



火災が発生したら

- できる限り低い姿勢をとり、急いで建物から出ましょう。
- 口と鼻をハンカチなどで覆いましょう。



閉じ込められたら

- 明るくするためにライターなどで火をつけないようにしましょう。
- 動き回って粉じんをかき立てないようにしましょう。口と鼻をハンカチなどで覆いましょう。
- 自分の居場所をまわりに知らせるために、配管などを叩きましょう。
- 粉じんなどを吸い込む可能性があるので、大声を上げるのは最後の手段としましょう。



テロ攻撃からの避難

- 突発的に被害が発生することもあるため、攻撃当初は一旦屋内に避難し、その後、状況に応じ行政からの指示に従って適切に避難しましょう。



ミサイル攻撃からの避難

- 屋外にいる場合は、近くの堅ろうな建物の中や地下街などに避難しましょう。
- 建物がない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守りましょう。
- 屋内にいる場合は、窓から離れるか、窓のない部屋に移動しましょう。



化学剤や生物剤攻撃からの避難

- 口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ、密閉性の高い部屋又は風上の高台などに避難しましょう。
- 屋内では、窓を閉め、目張りをして室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋に移動しましょう。
- 2階建て以上の建物であれば、なるべく上の階へ避難しましょう。
- 汚染された服、時計、コンタクトレンズなどは速やかに処分し、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。



核爆発や放射能汚染からの避難

- すぐに遮へい物の陰に身を隠しましょう。近隣に建物があればその中へ避難しましょう。
- 周辺に地下施設があれば地下へ移動しましょう。



岡山県の災害リスクといざという時の行動

避難先の検討

- 1 事前にハザードマップで自宅や職場周辺の災害リスクを把握しましょう。
- 2 ハザードマップで色が塗られていないところでも、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの場合は、市町村からの避難情報を参考に、必要に応じて避難しましょう。
- 3 浸水の危険があるところでも、マンションの上階など浸水する深さよりも高いところに住んでいて、周囲が浸水しても水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にある場合は、自宅に留まり安全を確保する「屋内安全確保」も可能です。
- 4 安全な場所に身を寄せられる親戚や知人がいる場合は、避難所だけでなく親戚・知人宅への避難も検討しましょう。また、ホテルや旅館も避難先の一つとして検討しておきましょう。
- 5 自分又は一緒に避難する人が避難に時間がかかる場合は、警戒レベル3が出たら速やかに避難しましょう。

自分の命を守るのは自分であるという認識を!



命を守るための行動



立ち退き避難 (水平避難)

事前に決めた避難先への移動

屋内安全確保 (垂直避難)



立ち退き避難、屋内安全確保と緊急安全確保

避難情報が出たら、早めに安全な場所へ「立ち退き避難」することが原則ですが、ハザードマップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への移動や高層階に留まること等により、身の安全を確保することが可能な場合があります。この行動が「屋内安全確保」です。また、危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、命を守るために最善の行動をとってください。

例えば

「屋内安全確保」を行うためには、少なくとも以下の条件が満たされている必要があります。

- 自宅・施設等がある場所が、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい氾濫の発生が想定される区域でないこと
- 自宅・施設等に浸水しない居室があること
- 自宅・施設等が一定期間浸水しても、水・食料等の備蓄があり、電気・ガス・水道・トイレ等が使用できなくなっても耐えられること

立ち退き避難が難しい場合

立ち退き避難を行う必要がある場合に、適切なタイミングで避難をしなかった又は急激に災害が切迫して避難することができなかった場合など、立ち退き避難を安全にできない可能性がある状況になってしまった場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、より安全である場所へただちに移動することを「緊急安全確保」と言います。ただし、この行動は次善の行動であり、身の安全を確保できるとは限りませんので注意する必要があります。

避難時の服装

非常持出袋は背負って走れるぐらいの重さようにしましょう。



ヘルメットや防災ずきんをかぶる: 頭を落下物などから守る

マスクの着用

子どもにも子ども用の非常持出袋を用意する

子どもには迷子札を

手袋(軍手など)を着用する: ガラスの破片などによる手のけがを防ぐ

靴は底が厚くて丈夫な、履きなれたものを: ガラスの破片などによる足のけがを防ぐ、靴擦れを防ぐ
長靴は厳禁: 水が入って重くなり、動きづらくなる可能性がある

非常持出品はリュックに入れて背負う: 両手が使えるようにする (非常持出品についてはP17を参照)

服装は長袖、長ズボンを着用する: 材質は燃えにくい木綿などのものを

避難所での生活

- 1 避難所はみんなで協力して運営しましょう

食料の配布やトイレ掃除など、やることはたくさんあります。みんなで協力して共同生活をしましょう。清潔を心掛けましょう。

- 2 避難所内ではお互いに譲り合きましょう

慣れない避難所での生活は大変ですが、そんな時だからこそ譲り合いの気持ちを持ちましょう。

- 3 避難所では要配慮者への配慮を

要配慮者(高齢者、障害のある人など)の特性に合わせ、別に避難スペースを設けるなどの配慮を行いましょう。

- 4 避難所では感染症予防の徹底を

避難所では、マスクの着用、手洗い、咳エチケットなどの基本的な対策や、定期的な換気、十分なスペースの確保などの感染症予防を徹底しましょう。

- 5 女性や子どもへの配慮

避難所では、多くの人が安心して過ごすことができるよう、女性や子どもに配慮した生活環境を考えましょう。

- 6 <支援者の方へ> むやみに物資を送らないようにしましょう

個人からの支援物資の受入は非常に手間がかかり、被災地に負担をかけます。義援金を送るなどの対応を考えましょう。

